

第1期「にいがた福祉リーダー塾」(後期)

主催:新潟県労働者福祉協議会

後援:新潟ろうきん福祉財団

～労働者自主福祉運動の新たな発展を期しての人材育成をめざして～

2014年6月13日・14日の二日間に渡り、第1期にいがた福祉リーダー塾(後期)を開催しました。前期日程で学んだこと、後期日程で学ぶことをアウトプットするグループミーティングを中心に添えて、労働金庫の歴史、総合生協の歴史、働くことを軸とする安心社会に向けての現在の社会情勢を学びました。今回第1期の卒業生は、19名。今後は、それぞれの立場で、労福協運動を進めるリーダーとして活躍していくことを期待しています。

■プログラム

《6月13日(金)》

・第一講座

「労働金庫運動の基本方向と課題」

「全労済運動の基本方向と課題」

・第二講座

「ビジネスユニオニズムからソーシャルユニオニズムへ」

《6月14日(土)》

・第三講座

「グループミーティング」(題材)

・「働くことを軸とする安心社会」の実現に向けた労組・労福協の役割

・労福協地域運動の実践課題は何か

・「協同組合間協同」の在り方

・労福協とNPO等市民活動団体との連携と協同をどうすすめるか

■講師陣

・第一講座

労働金庫 理事長 江花 和郎 氏
総合生協 専務理事 岡田 雅彦 氏

・第二講座

中央労福協 副会長 山本 幸司 氏

・第三講座

ファシリテーター
新潟県労福協 専務理事 山田 太郎 氏
新潟県労福協 事務局長 小野塚 勝一氏
新潟ろうきん福祉財団 室長 中村 昇 氏
新潟ろうきん福祉財団 事務局長 村田 和也 氏

■ 第1講座 (前半)

「労働金庫運動と労働組合」

国際的に高い評価を受けている労働金庫の設立経緯(歴史)の再確認、「存在意義をもう一度見つめなおし、労働組合がつくった助け合い、支え合いの協同組織金融機関＝ろうきんは、自分たちの金庫として労働組合とろうきんが「お客様」と「業者」の関係から「共に運動する主体」への回帰が必要であること。」「リーダーたる者「ヒトにものを頼む!!」ことが、リーダーの資質として必要でもある。」と付け加えました。



■ 第1講座 (後半)

「全労済運動の基本方向と課題」

新潟県内では、全労済業務は「総合生協」が受託しています。「総合生協」の設立経緯、新潟大火時の県内労働組合からの共済金支払への協力、現在の総合生協経営政策について、幅広い視野から労働組合との関係性について話されました。「生協運動の父は、ご存じ賀川豊彦氏ですが、新潟県内における生協運動の母は、まぎれもなく皆様方「労働組合」なんです!!」と最後付け加えられました。



■ 第2講座

「ビジネスユニオニズムからソーシャルユニオニズムへ」～働くことを軸とする安心社会の実現に向けて～

山本幸司副会長の迫力ある声で、現代社会の現状について詳しく講義いただきました。日本社会は持続可能ではない(う～シヨック)!人口減少問題、富の配分の歪み…雇用の劣化…深刻な貧困問題…豊かな日本と思われがちだが、現状は疲弊しきっています。そのような中で連合の掲げる「働くことを軸とする安心社会」を目指す意義や労働組合、協同組合がより良い社会を築くために何をすればよいか、多方面からお話しいただきました。

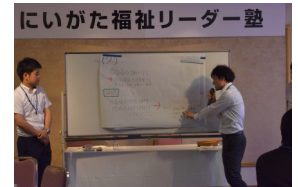


■ 第3講座

「グループミーティング」



今回のリーダー塾最大の難関「グループミーティング」。前期の講義、後期の講義を受けてグループごとの課題を解決するために塾生同士で議論し合い結論を導き出す作業。議論が活性化するように「ブレインストーミング法」や「KJ法」等を利用して議論を深めました。後半は、グループごとに発表。さすがみなさん労組役員の



方々。発表もお上手でした。実は事務局は、この発表を聞きながら「ワーク&ライブフォーラム」での発表者を選定していました。

最後、前期・後期通して受講された19名に対し新潟県労福協齋藤理事長より「修了証」が手渡されました。何事も第1期とは印象に残ります。これからそれぞれの立場に戻り学んだ知識と議論を重ねた経験をもとに「ブリッジビルダー」としての活躍を期待したいところです。



編集後記

無事第1期19名が修了証を手に入れました。この19名が自分の立場でどのように学んだ知識を生かしていくが重要です。数年後第1期生の集いを開催したときには、どれだけみなさん重責を担っているでしょうか? 因みに急きょ開催した「第1期生の集いBBQ」参加者は4名…。Nさん企画立案お疲れ様!! (M.I)